

国内実態調査報告書

テーマ : 中小物流企業 M 社の「健康食品物流」の評価・改善案提案
ゼミ名 : 堀内 恵 ゼミ
調査日 : 2024 年 9 月 5 日（木）～9 月 7 日（土）
調査先 : 丸市倉庫株式会社
授業科目名 : 演習Ⅲ
参加学生数 : 9 名（4 年生）

調査の趣旨（目的）

本授業は、中央大学商学部の特徴ある授業の一つとして実施される取組の一つである。本授業の目的は、①地方における物流会社の戦略、組織間連携を支援する物流の現状を集団的問題発見・分析・解決のための図式化整理し、②そのもとで、改善案や革新の可能性を探り、③最終的に最新の情報技術ベースのビジネスプロセスモデルの構築する一連の実戦能力を養うことである。

調査結果

今回の調査では、KH 研究所の健康食品物流に関するオンライン受注や配車業務について調査し、課題を見つけ、改善案を提案した。

調査は、6 月 25 日に行った事前調査と 9 月 5 日からの本調査に分かれる。事前調査では、M 社（物流会社）に健康食品（シャンプー、化粧水など）を預ける「KH 研究所」、製品の製造を委託する「メーカーBone」、製品の納品先である「一次代理店」と「最終顧客」、および商品を届ける「運送会社」との間でのモノと情報の現状の流れについて調査し、今後の戦略的な試みについて担当部長に話を伺った。M 社からは、物流関係図に基づき、ビジネス運営に必要な各種帳票類、KH 研究所、メーカー、一次代理店、運送会社、倉庫間のデータとモノの流れについて説明を受け、荷物の入出荷作業が行われる現場倉庫も視察した。これらの基礎データに基づき、学生は 2 つのチームに分かれ、環境戦略分析と業務分析を行った。

各チームは夏休み中に集まり、環境戦略分析、ビジネスプロセスの図式化整理、現状課題の抽出と解決案の準備を進めた。9 月 5 日からの夏合宿では、再度担当者へのインタビューを実施し、現場でのデータとモノの流れの調査を行った。各チームは準備してきた分析結果を、M 社社員からのアドバイスを基に修正し、9 月 6 日に成果を取りまとめて報告した。

今回の調査の結果、以下の①～③の成果が得られた。

① 大学で学んだ分析手法を実際の企業のビジネスプロセスに適用し、モデル化することができた。これにより、学生は学んだ理論を実務に活かす貴重な機会を得ることがで

きた。

② 調査を通じて得られた知識や経験を基に、学生は卒業論文制作に向けた基礎知識を確立することができた。この経験は、今後の研究活動においても重要な土台となる。

③ グループ討議を通じて、分析力や発見力が向上した。学生同士の協力や M 社からのアドバイスを受けることで、より深い洞察を得ることができた。

また、今回の取り組みは拓殖大学の安積ゼミと共同で実施したため、安積ゼミの学生からのフィードバックを得る機会もあった。たとえば、ビジネスモデル・キャンバス分析手法の展開方法について、堀内ゼミでは取り上げなかった視点から学ぶことができた。

一方で、M 社にとっては、業務初心者である学生に説明する過程で、既存のビジネスプロセスを最新の情報技術を用いて見直す機会となった。学生の新しい視点や知識を取り入れ、ビジネスプロセスを図式化し整理する能力の向上にも寄与した。